

学校から見える「障子ヶ岳」を知っていますか。

校門を出るとすぐに右手の西側に見える山、標高427mの障子ヶ岳（しょうじがたけ）。山頂部分がなだらかで、整地されていたことが遠くからでもわかるこの山。実は、1600年代に廃城となりましたが、それまでは、何と本当にお城があった山です。四季折々の顔を見せる牙城跡（きばじょうあと）。旧勝山町民の歌にも出てきた障子ヶ岳には城跡があり、地元ではこれを牙城跡と呼んでいます。

1336（建武3）年に、足利尊氏の命によって足利駿河守統氏が居城としていました。その後、千葉総介光胤、梶大蔵大輔の居城となりました。さらに、1513（天正17）年に小早川左衛門隆景、1587（文禄15）年には豊臣秀吉の城となり、その命で黒田孝高の城と変わりましたが、1615（元和元）年の徳川家康の一国一城令によって廃城となりました。

こんな歴史の1ページが刻まれた山が、これほど近くに存在することすら知らなかった人もいますでしょう。私は、たまたま10年ほど前の1月1日の早朝に当時ボーイスカウト活動をしていた娘と息子と隊員の皆さんと「初日の出」を拝みに登山したことがあります。ユニプレス側から登りましたが、途中から急な登りで息を切らしたことを覚えています。

諫山小の先の味見桜公園側から登山することもできます。山頂までは、1時間ちょっと。機会があれば、ぜひ山頂へ。頂上からは、みやこ平野が一望にできます。だからこそ、守りを固める城をつくるには、適していたのでしょう。今回は、古（いにしえ）のロマンに触れてみました。



障子ヶ岳の位置

